

特集 短命県の返上 ～弘前大学 COI との連携～

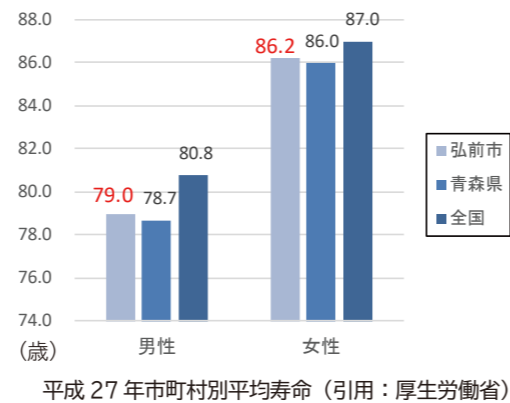
青森県の平均寿命は、全国最下位。当市も全国平均と比べ男性は1.8歳、女性も0.8歳ほど短命となっており、健康寿命の延伸は地域の重要課題といえます。

市では、「寝たきり“ゼロ”社会による健康都市ひろさきの実現」を目指し、市民の健康増進と健康管理関連の産業振興を連動させた「ひろさきライフ・イノベーション戦略」を策定しています。この戦略の基本方針の一つとなっている「弘前大学 COI 拠点との連携強化」の取り組みを紹介し

■問い合わせ先 企画課 (☎ 40-0631)

弘前大学 COI 拠点とは？

弘前大学 COI (センター・オブ・イノベーション) とは、文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」における全国18の研究拠点の一つです。弘前大学 COI は、弘前市と共同で平成17年度から実施してきた追跡調査研究「岩木健康増進プロジェクト」が高く評価されており、「健康ビッグデータと最新科学がもたらす“健康長寿社会”」を目指し、健康ビッグデータを活用した認知症や生活習慣病など病気の予兆発見・予防法を開発する研究と健康管理関連事業の展開による地域経済の活性化に取り組んでいます。



第1回日本オープンイノベーション大賞「内閣総理大臣賞」を受賞

弘前大学 COI の取り組みは、ビッグデータを核に、大学・市・県・企業・市民など多くの関係者が協力・協働して疾病の予兆発見や予防法の開発に取り組む点や、地域への経済効果、住民の健康への価値観のシフトに貢献している点が高く評価され、企業や大学等による組織の壁を越え、先導性や独創性が高く、他の模範となるような取り組みを表彰する「日本オープンイノベーション大賞」で全国200件以上の取り組みの中から、記念すべき第1回の最高賞を受賞しました。



弘前大学と市が取り組む2つの健診

岩木健康増進プロジェクト健診

平成17年度から、岩木地区の住民約1,000人を対象に、体組成や口腔内細菌など2,000項目以上をチェックする健診を毎年実施しています。蓄積されたデータは世界でも注目されるビッグデータとなり、弘前大学 COI 設立の核となりました。

受診者の声



福島さん

検査項目の多さに魅力を感じ、参加しました。検査時間は少し長いですが、その分すみずみまで調べてもらえます。健康のためにお酒も適量を心掛けるようになりました。

いきいき健診

平成28年度から開始した65歳～80歳の市民約2,500人を対象とした健診で、頭部MRIや体力測定など全身をチェックします。10年間の追跡調査を行い、認知症のメカニズムや予防法などを探ります。

受診者の声



工藤さん夫妻

10年間健康に生きるための目標として、夫婦で参加しています。特に体力測定が楽しいです。今は食事に気を付けているほか、夫婦で健康教室に参加するようになりました。

企業も COI の取り組みに注目！

弘前大学 COI の健康ビッグデータに国内大手企業が注目し、ヘルスケア (健康管理) サービスの開発を目指して、弘前大学に共同研究講座を開設しています (令和元年9月末現在14講座)。共同講座を開設している企業は下記に紹介する企業に加えて、サントリー、クラシエ、明治安田生命、ファンケルなど市民の皆さんもよく知る大手企業です。私たちは、COI の戦略を通じて、単なる企業誘致にとどまらず、国内大手企業・中央の市場と弘前市をはじめとする地元企業とを結び付けることにより、新規事業創出、地方創生の実現を目指しています。



弘前大学 COI 副拠点長 村下公一教授

弘前大学 COI 拠点で研究する企業の皆さん

花王株式会社



安川 拓次さん

内臓脂肪と生活習慣病のリスクに注目し、簡単・正確に測定できる内臓脂肪計や、しっかり食べて太りにくい“スマート和食”を開発し、地元企業と連携した健康増進活動などを実施しています。現在は、独自の解析技術を活用し、皮脂から体内状態を予測する方法も研究しています。短命県返上に向け、弘前を拠点に社会実装を進めていきます。

ハウス食品グループ本社株式会社

食事業を通じた「笑顔」と「つながり」の実現を目指しています。弘前の健康ビッグデータを活用して、食事の内容、タイミング、誰と食べるかといった食習慣と健康の関係を研究しています。健康寿命延伸につながる食習慣を解明し、研究成果をもとにした食スタイルの提案を行っていきます。



小濱 佑介さん

ライオン株式会社



栗田 啓さん

口腔ケアや睡眠状態が全身健康とどのように関係しているか調べています。この研究から歯周病や歯の喪失が、メタボや認知症等の全身健康へ悪影響を与えていることが見えており、その重要性から啓発型健診にも口腔保健が組み込まれています。弘前発の成果で日本を健康にしていきたいと思っています！

／ 中路先生からのメッセージ ／



弘前大学 COI 拠点長 中路重之特任教授

弘前大学 COI では、企業、市町村、大学、市民と強く連携して短命県・市返上を実現しようとしています。大きな特徴は、県内外から多くの企業が参加し、それぞれの立場から短命県返上につながる活動を行っていることです。今、新しい形の健康づくりのシステム (啓発型健診) を開発しています。楽しく、その場で結果が分かり、しかも自分のデータを手に持って健康の勉強ができるシステムです。私たちの健康づくりは、経済の活性化、つまり地域おこし、町づくりに役立つと信じています。弘前市民の皆さん、“弘前大学 COI” と覚えてください。

カゴメ株式会社



菅沼 大行さん

不足している日本人の野菜摂取量を増やすことを目指し、手のひらを乗せるだけで、野菜摂取量の充足度を測定する機器を開発するなど、野菜摂取量の“見える化”に取り組んでいます。弘前のデータ解析から野菜の摂取が健康に有効なことを明らかにし、野菜摂取を促す仕組みの普及を図ります。

アツギ株式会社

「着て・はくだけで素敵になれて、さらに自己管理にも役立つ」そんな下着と健康管理の仕組みが誕生したら、楽しく続けられると思いませんか。「ファッションが人生を楽しむ」をテーマに、アツギの強みである「美」の観点に研究のエッセンスを注入し、健康管理に役立つレッグウェア・インナーウェアの開発を目指します。



小俣 公人さん

市職員も協力しています！

市の職員も歯科口腔健診のモデル化や、衣料を活用した健康意識の醸成を目指した実証に参加しています。健康につながる新商品等の開発を促進することで、研究成果が一日も早く市民に還元されるようこれからも協力していきます。

